

番号	分野	意見内容	姫路市対応
1	分野目標 (案) 全体 (P2)	8050問題や、ダブルケアの問題について、全国のデータだけでなく、具体的に姫路市の数字を示した上で議論する必要があるのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・市では、在宅介護実態調査の中にダブルケアに関する設問を設け、調査しているところである。 ・また、兵庫県がひきこもりに関する実態調査（12月末まで）を行っているところである。 ・これらを踏まえ、目指す姿を実現するための方向性や施策・事業の中で検討する。
2	分野目標 (案) 全体 (P2)	分野目標について、実際にそのような方向になっているのか。障害者が車椅子で近くの公園に行けるのかということを考えた時にこのような表現で良いのかと疑問に思う。	障害者を含む全ての人々が住み慣れた地域で生活していけるよう、目指す姿を実現するための方向性や施策・事業の中で検討する。
3	分野目標 (案) 全体 (P2)	分野目標に「高齢者、障害者、子ども、生活困窮者を含むすべての人」とあるが、この4者で十分なのか。「生活困窮者等」などとして、もう少し含みを持たせた方がよいのではないか。	福祉分野の主なサービス対象者としてこの4者を例示している。例示とより分かるよう「高齢者、障害者、子ども、生活困窮者をはじめすべての人」に修正する。

番号	分野	意見内容	姫路市対応
4	健康福祉 分野 政策1 (P3)	外部環境で障害者差別解消法の制定の意義などをここで強調されてはどうか。	P4政策2「いきいきと暮らせる障害者福祉の充実」の外部環境（機会）の②「障害者の社会参加に係る取組の推進」 <u>（障害者総合支援法(H25)などに加え、障害者差別解消法が施行(H28)）</u> に修正する。
5	健康福祉 分野 政策2 (P4)	手話通訳をはじめ、支援する側の人手が不足していることで、サービスの受給量に制限がある。それを撤廃することで、より広く障害当事者が社会参加できるが、それができていないという問題がある。	手話通訳者等の支援者の人材育成に努めるなど、支援を必要とする方が偏りなくサービスを利用できるよう、環境を整えていく必要があると考えており、目指す姿を実現するための方向性や施策・事業の中で検討する。
6	健康福祉 分野 政策2 (P4)	「ウ 福祉専門職（介護福祉士、社会福祉士等）を確保、育成するためには？」とあるが、障害当事者が社会参加できる環境を整えるためには、手話通訳者の養成、要約筆記者の養成、介護ヘルパーの養成などについて、具体的な数値目標を設定する必要があるのではないか。	姫路市障害福祉推進計画において、手話通訳者養成研修実養成講習修了者数15人/年、要約筆記者養成実養成研修修了者数10人/年を見込んで事業を実施している。

番号	分野	意見内容	姫路市対応
7	健康福祉 分野 政策2 (P4)	手話通訳について、広報に講習会の案内があるが、市民には敷居が高い。子どもの読み聞かせなども特別な技術が必要なようで、一般市民は広報を見ても二の足を踏んでしまう。もう少し近くの公民館で開催するなどであれば、敷居が低くなるのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・手話通訳や要約筆記は、専門的な知識や技術を必要とする資格であり、指導者の数も限られているため、手話通訳者や要約筆記者の養成について、総合福祉会館に集まっていただいている。 ・身近なものとしては、小学生とその保護者を対象とした手話教室を実施している。
8	健康福祉 分野 政策3 (P5)	(内部環境(弱み)の)「④医療・介護サービス事業者の地域偏在」について合併をしてから時間が経っているが、この問題が置き去りにになっている。都市部から離れるほどそういった負担も大きくなってきており、福祉サービスそのものを受けることができにくい状況も出ている。	特別養護老人ホームなどの設置事業者を選定する際、要介護者数などの割合に対する施設整備数に応じて評価点を加配するなど、地域偏在の解消に努めている。
9	健康福祉 分野 政策1、3 (P3、5)	地域包括支援センターの充実を図ることが大事である。	市では、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう支援するため、地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んでいるところであり、今後も施策・事業として継続する予定である。

番号	分野	意見内容	姫路市対応
10	健康福祉 分野 政策3 (P5)	住み慣れた環境で生活していくためには在宅医療の充実が必要である。	在宅医療・介護の連携を図るため、姫路市医療介護連携会議を設置し、在宅医療・介護の課題の抽出と対応策を協議するなど、医療・福祉関係者等の連携を図っており、今後も施策・事業として継続する予定である。
11	健康福祉 分野 政策3 (P5)	在宅医療がこれからますます必要になることは明らかで、病院も単独で対応することは非常に難しく、在宅診療施設と病院が連携して、地域で完結するようなシステムを構築しないと、増え続ける高齢者、医療費に対応できない。	
12	健康福祉 分野 政策3 (P5)	在宅医療をしている人にとっては老々介護に繋がることもある。介護しているうちに、どちらも認知症になるなどの問題もある。家族が近くに住んでいてもあまり交流がなく、不幸になるパターンもある。逆にうまくできている場合もあり、絞らずに多様性を持って取り組むことが必要だと感じる。	
13	健康福祉 分野 政策3 (P5)	看取りについては医師が主体というよりも、これからは家族、看護師など関係する多職種の人が中心となる。多職種連携会議では、医師会が中心にはなっているが、医師だけではなく、看護師、ケアマネージャーの参加も必要である。	

番号	分野	意見内容	姫路市対応
14	健康福祉 分野 政策3 (P5)	老人クラブには人数に応じて補助金が出ているが、数多くの活動を行うには金額が少ない。また、老人クラブの会合や行事に参加する男性が少ない。	各老人クラブの活動が活性化するように、目指す姿を実現するための方向性や施策・事業の中で検討する。
15	健康福祉 分野 政策1、 3、5 (P3、 5、7)	姫路は特定健診、メタボ検診の率が低いので改善が大事である。フレイルについても今後考えていかなければならない。	<ul style="list-style-type: none"> ・市では、特定検診・特定保健指導の受診、特定検診未受診者への受診勧奨、生活習慣病予防など、普及啓発に取り組んでいる。 ・自立支援・重度化予防のため、理学療法士等が自宅を訪問し、相談・指導を行う事業を始めたところであり、今後も施策・事業として継続する予定である。

番号	分野	意見内容	姫路市対応
16	健康福祉 分野 政策4 (P6)	子育てに熱心な親とそうでない親の差があるので、意識改革ができたらいい。関心のある方は良いが、関心の無い方にどう関心を持ってもらうかが重要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・市では、地域子育て支援拠点事業として、すこやかセンター、児童センター、保育所（園）において、乳幼児及びその保護者の交流の場の提供や相談、情報提供等の支援を行っているほか、子育てに関する基礎的な知識や本市の制度等を紹介した子育てガイドブックを配布している。
17	健康福祉 分野 政策4 (P6)	未就園児で、児童センターやすこやかセンターに行かれる方は、いつも行かれているが、行かれない方はなかなかそこに関心が向かない。そうした中で、親が孤立しないように、保育園・こども園で声かけをすることが重要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親世帯への支援として、母子・父子自立支援員を配置し、専門的な相談支援なども実施している。 ・広く情報提供を図るとともに、多くの方に施設等を利用してもらえるよう施策・事業を継続する予定である。
18	健康福祉 分野 政策4 (P6)	ひとり親世帯の増加に伴い、親の子育て力の低下もあるので、どんどん相談できる環境を作っていくことが大事。	
19	健康福祉 分野 政策4 (P6)	相談窓口について、どこに相談していいかわからない。市にどのようなサービスがあるかを知らない人もいる。	

番号	分野	意見内容	姫路市対応
20	健康福祉 分野 政策4 (P6)	6ページの「2 目指す姿を実現するための方向性」に「男女が共に活躍できる環境の充実」とあるが、まだまだ、男女が共に活躍できる環境としては課題があるように思う。子育てをするにおいても男性の意識改革は重要である。	市では、男性保護者を対象としたイベントの実施や男性保護者向けの育児啓発冊子の作成など、男性の育児参加に取り組んでおり、今後も継続する予定である。
21	健康福祉 分野 政策4 (P6)	明石市では保育士の手当がいいので、明石市に流れるという話を聞いたことがある。 姫路で育った保育士が他市へ行ってしまい、ここで育った先生がいなくなるのは残念だと思う。	<ul style="list-style-type: none"> 市では、保育士の処遇改善や定着支援一時金・住居借り上げ支援を行っているほか、保育士・保育所支援センターを設置し、潜在保育士等の就職斡旋など、保育士確保を拡充している。 それらの取組については、今後も継続する予定である。
22	健康福祉 分野 政策5 (P7)	P8政策5の内部環境の①で強みとして健康づくりに取り組んでいるということがある一方で、弱みとしてがん検診の受診率が低いなど、行政側の告知の不十分さなのか、もともと市民の健康意識が低い状態にあるのか、そのあたりが施策に反映される必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 市では、市内各会場に検診車が出向く集団検診と実施医療機関で受診する医療機関検診を実施するとともに、検診受診に係る普及啓発を行っている。 それらの取組については、今後も継続する予定である。
23	健康福祉 分野 政策5 (P7)	がん検診に関しては検診へのアクセスは悪い。もう少し多くの場所で開催できればいいと思う。受けたい人はたくさんいるが、なかなか日程が合わない等でできていない印象がある。	

番号	分野	意見内容	姫路市対応
24	健康福祉 分野 政策5 (P7)	政策5の弱みの②他都市と比べがん検診受診率が低いはずしも文言どおりではないということになるので、違う解説が必要ではないか。	P8政策5の内部環境の弱み「②他都市と比べがん検診受診率が低い(胃がん、肺がん、大腸がん)」に修正する。
25	健康福祉 分野 政策5 (P7)	生活衛生の分野については、犬猫の譲渡会などもされているが、犬猫の殺処分ゼロに向けた取組をやっていたきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・飼い主、市民意識の向上のための教育活動や各種講習会を通して普及啓発を行っている。 ・また、犬猫の引き取りを求める市民の方に対しては、終生飼育の重要性や飼育方法等について説明をし、最後まで飼育してもらえるよう啓発に努めている。 ・それらの取組については、今後も継続する予定である。

(参考) 他の分科会 (第2回) での意見

番号	分野	意見内容	姫路市対応
1	健康福祉 分野 政策1 (P3)	災害時要援護者事業に係る訓練等について、本当の意味を理解して実施できているのか疑問である。	事業の趣旨をしっかりと理解していただけるよう、出前講座等を通じて、普及啓発に取り組んでおり、今後も継続する予定である。
2	健康福祉 分野 政策1 (P3)	民生委員・児童委員のなり手不足が現実化している。	民生委員・児童委員の必要性や重要性を啓発するよう努める。

(参考) 他の分科会 (第2回) での意見 (教育分野)

番号	分野	意見内容	姫路市対応
1	教育 分野 政策2 (P12)	生涯学習大学校や好古学園大学校について、高齢者が増えている中、学校から離れたところに居住している市民が受講しにくいと考えないのか。両施設の講座よりも各校区の公民館講座を充実させた方が市民が受講しやすく生涯学習社会の実現に繋がるのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の講座は、公民館活動推進委員会を中心に、地元からの意見をお聞きしながら企画・実施している。 ・また、講座以外にも地域の集会や会議等にも利用されており、各地域において地元ニーズに合わせて有効に利用していただいている。